

平成20年度（第44期）事業計画

北海道の景気の低迷状態が続いており、福祉団体への影響も少なくない。活動費確保に苦勞している団体、グループも多い。こうした状況の中で当基金の一般公募助成に対する期待が大きく、19年度は130件を超す応募が寄せられた。多様な要望に応えるために今期は前期より400万円増額し、少しでも多くの団体、グループに助成ができるようにし、奨学金事業と並ぶ事業の柱として運営していく。小規模授産施設助成は、前期の応募実績を踏まえて据え置いた。ボランティア奨励賞は例年通り10団体に贈る予定。

寄付収入は平成18年度、19年度とも予算額を大きく上回っている。景気回復が遅れている中で多くの方から寄付が寄せられている。

事業内訳

一. 貸付事業 (前期と同額) 14,000万円

社会福祉法人などへの貸付事業は、札幌市の認可保育所の新設、改築で2件の貸し付けを予定。そのほか期中の貸し付け申し込みに備えて3件(1件2,000万円)分を予備費に計上した。

1. 社会福祉法人 公募保育所 (札幌市) (認可保育所2件)	8,000万円
2. 予備費	6,000万円
合計 (3件)	14,000万円

社会福祉法人などへの設備資金の貸付は、17年度は4件1億1600万円、18年度は7件1億7910万円だったが、19年度は3件5300万円にとどまった。札幌市が待機保育児解消対策の一環として保育所の新設を年次計画に沿って認可しており、20年度は新設1カ所、改築1カ所の貸付を希望している。

貸付利率は1.7%を据え置く。

二. 助成事業(1~6) (前期比+600万円) 6,430万円

1. 歳末たすけあい助成 (前期比+200万円) 1,200万円

歳末たすけあい募金には、当基金に寄せられた募金相当額と基金からの拠出金を合わせ、12月に北海道共同募金会に寄付している。歳末たすけあい募金は道内の景気低迷を反映して年々減少傾向にあることから、過去3年は1,000万円だったが、今期は200万円増額して1,200万円の寄付を行って募金活動を支える。また助成のうち700万円は指定寄付金として道共同募金会経由で札幌交響楽団へ拠出し、福祉施設入所者などに出前で音楽を楽しんでもらう「道新福祉基金アンサンブルコンサート」の開催や、札幌市保健福祉局の協力を得て札幌・キタラでの演奏会への招待を行っている。今期も前期同様にアンサンブルコンサートを札幌、深川、網走などで8カ所、演奏会招待5回(各回42人招待)を計画している。

2. 奨学金 (前期と同額) 2,220万円

道内の母子家庭や養護施設、児童福祉施設などから高校、高等養護学校などに通う生徒に対する奨学金は、前期と同様に1名月額5,000円、年間6万円を北海道母子寡婦福祉連合会など福祉4団体を

窓口に支給する。対象者は前期同様370名で支給総額は2,220万円。このうち700万円は道新からの助成金を充てる。

支給内訳は以下の通り。

①母子家庭生徒（北海道母子寡婦福祉連合会扱）	178名	1,068万円
②　　”　　（札幌市母子寡婦福祉連合会扱）	42名	252万円
③養護施設入所生徒（北海道児童養護施設協議会扱）	103名	618万円
④障害者福祉施設入所生徒（北海道身体障害者福祉協会扱）	47名	282万円
合計	370名	2,220万円

3. 第32回道新ボランティア奨励賞（前期と同額） 370万円

昭和52年（1977年）から北海道新聞社事業局、北海道社会福祉協議会（以下道社協）の協力を得て行っている事業。道内で積極的にボランティア活動を続けている団体、グループを対象に、市町村、教育委員会、地区社協などの推薦を受けた団体から、同賞審査委員会で10団体を選出して表彰する。一般奨励賞に25万円、特別奨励賞に50万円を贈り、これまで295団体が受賞している。表彰式は10月に苫小牧市で開催される「ボランティア愛ランド北海道」の席上で行う予定。

4. 小規模授産施設への各種費用助成（前期と同額） 600万円

道内の小規模通所授産施設が行っている生産活動に使用する器具備品の整備、研修への参加費用、法人格取得（NPO法人、社会福祉法人）費用の助成を行っている。道社協の協力を得て希望団体を公募し、評議員会で助成団体を決定する。19年度は24団体に助成した。

5. 一般公募助成（前期比+400万円） 1,700万円

広く全道に助成希望を公募し、「予備審査会」と「評議員会」の承認を得て助成している。これまで助成事業の対象とならなかった活動領域も対象とし、福祉活動の裾野を広げるベンチャー的役割の取り組みや、福祉活動の未開発部門の開拓にチャレンジしている取り組みなど、多方面の福祉関連活動への助成を行っている。年々応募団体が増えて19年度は132件の応募があり、33件に助成したが、より多くの団体を支援するため、前期比400万円増の予算を計上した。

6. その他の助成事業（12件）（前期と同額） 340万円

新規では、全日本手をつなぐ育成会の全国大会が9月13、14の両日、札幌市で開かれ、主催する北海道手をつなぐ育成会に大会費用の一部30万円を単年度で助成する。

事業名	助成回数	予算額
1. ふきのとう文庫	(28)	100,000円
2. 札幌市里親会	(15)	100,000円
3. 北海道里親会連合会	(34)	200,000円
4. 北海道精神障害者スポーツ大会	(12)	200,000円
5. 北海道身障者スポーツ振興事業	(23)	300,000円
6. はまなす全国車いすマラソン大会	(19)	300,000円

7. 北海道交通遺児の会（奨学金）	(29)	500,000円
8. 知的障がい者本人の会全道交流会	(12)	300,000円
9. 赤い羽根ティーボール北の甲子園	(11)	200,000円
10. 北海道いのちの電話研修事業	(20)	200,000円
11. 北海道ノーマライゼーション推進セミナー	(23)	700,000円
12. 全日本手をつなぐ育成会全国大会北海道札幌大会	単年度	300,000円
合 計		3,400,000円

三. 私立高校生への道新みらい君奨学金 (前期と同額) 720万円

基金設立40周年事業として立ち上げ、平成18年1月から助成を開始した。道内の私立高校の在学生在が、家計を支える人の突然の死亡や解雇などで経済的に通学を続けることが非常に困難な状況に陥った場合に、原則1年間、緊急的な救済を行う奨学金制度である。

平成17年度は6名、18年度は前年度からの継続5名を含め16名に奨学金を支給した。19年度は「道新SOS奨学金」からより親しみやすい「道新みらい君奨学金」と名称を改め、さらに支給内容も月額2万円から3万円にアップするなど規定の一部改定を行った。今期も1名当たり年額36万円、20名分の枠を設けた。

四. 情報管理システム開発 (前期比-25万円) 25万円

情報管理システム開発（データベース）によって寄付金、貸付金、助成金のデータの実績記録を入力し、貸付業務における償還作業の簡素化、正確化、省力化を図ってきた。前期は寄付金管理システムの機能アップのためのソフト改修をしたが、今期は新たなシステム開発は行わず、システム維持のための保守管理費用のみの計上。

五. 事業運営費 (前期と同額) 200万円

当基金の事業内容や社会福祉の宣伝啓発を行うための費用。道新、道新スポーツなどの新聞広告を主体に、道新ポケットブックやミニコミ誌などに広告掲載を行う。

六. 基金運営費 (前期比-22万円) 1,230万円

前期までの支出実績から旅費交通費、会議費、印刷製本費などで減額した。増額は人件費10万円、消耗品費3万円で、経費節減に努めて効率的な事業運営を図りたい。

七. 退職給付引当預金支出 41.2万円

前期に退職金の引き当てを専用の預金で管理するように措置した。20年度末に必要な退職金額と19年度の積み立て額の差額を積み立てる。

八. 予備費 (前期と同額) 300万円

収支予算のバランス調整と突発的な助成などに対応するための費用。前期と同額を計上した。